花橘

発行日
令和７年４月14日
第１号
発行・編集
三崎高校総務課

青

校長　中井賢哉

三月の末、家族で高知へ車を走らせた。目指すは仁淀川、その奥にある「にこ淵」。暖かな春の日差しの下、窓を開けると桜の花びらが舞い込んだ。車窓の景色は次第に山深くなり、やがて川のせせらぎが聞こえてくる。

「にこ淵」は、仁淀川の支流にある小さな滝壺で、水は透き通り、陽の加減でさまざまな青に変化する。「仁淀ブルー」と呼ばれる神秘的な青色は、まるで別世界のようだ。滝壺に立つと心が凛と引き締まり、静寂に包まれる感覚を覚え、心の奥底から力が湧いてくる。

青という色には、不思議な魅力があり、多くの成語や逸話がある。その中でも青いバラの話は印象深い。かつて、青いバラは自然界に存在せず、花言葉は「不可能」であった。しかし、2002年、日本の研究者たちの長年の努力の末、青いバラを誕生させた。その瞬間、花言葉は「不可能」から「奇跡」へと変わった。たゆまぬ努力が不可能を可能に変えた。

三崎高校もまた、海と空の青に囲まれた学校である。かつては、分校化の危機に直面したが、地元の人々や生徒、教職員の懸命な努力により、分校化を回避することができた。それはまさに奇跡ともいえる出来事だった。そして今では、全校生徒が150人を超え、活気に満ちた学校となった。

しかし、青には「未熟」という意味もある。だからこそ、青には、未来への大きな可能性が秘められており、三崎高校もまた、さらなる飛躍の途上である。

私は、「仁淀ブルー」を見たときに感じた、心の奥底から湧いてきた力を思い出しながら、三崎の空を見上げる。澄んだ青がどこまでも広がっている。生徒たちが、未来に向かって大きく羽ばたいていくために、学校はどうあるべきか。校長として考えるべきことは尽きない。頭上に広がる青は大きな可能性を秘めている。私は、この青い空の下、生徒たちがきらきらと輝く魅力的な学校づくりに、これからも力を尽くしたい。着任３年目の春、そう心に誓った。

転入者紹介

新しく10名の先生方をお迎えしました。

氏名	役職	教科	氏名	役職	教科
坂本　樹利	教諭	国語	宮部　真実	養護教諭	―
徳川　裕太	教諭	地歴・公民	久米山　恭賛	主事	―
松岡　拓哉	教諭	理科	岩井　小百合	教育支援員	―
古和田　美友	教諭	芸術	藤川　千代美	教育支援員	―
岩本　章史	教諭	商業	清水　浩三	教育支援員	―

令和７年度三崎高等学校入学式

４月９日（水）に入学式を行いました。46名の入学生は、緊張した様子でしたが、保護者の皆様、来賓の皆様、先生からの温かな拍手に迎えられて高校生活の第一歩を踏み出しました。新入生代表の中村媛華さんは、主体的に目標を求め、自己実現の道を歩んでいきたいと力強く宣誓しました。式辞で中井賢哉校長先生は、高校生活の主人公として、新しい自分との出会いや発見を楽しんでほしいとエールを送っていました。新入生は三崎高校に新しい風を吹き込んでくれることでしょう。教職員一同、全力で高校生活を指導・支援して参ります。